

令和4年度文化芸術による子供育成推進事業—巡回公演事業—

ワークショップ実施計画書

制作団体名	公益財団法人梅若研能会
公演団体名	公益財団法人梅若研能会

内容			
1	始まりの挨拶	3分	
2	仕舞 羽衣キリ <small>あずまあそ</small> 東遊 <small>かすみ</small> びの数に…霞 <small>まぎ</small> に紛 <small>う</small> れて失せにけり。	5分	
3	・装束付け実演 ・おはなし	・先生をモデルにした装束付けの体験(羽衣の装束) ・装束を付けた後先生に能面を付けてハコビ(すり足歩行)をしてみよう ・やさしいお能の説明	15分 5分
4	ハコビの体験	・ハコビ(歩行)の体験(全校生徒)	5分
5	能面を付けてみよう	・生徒の代表6名程度の選抜を学校に依頼 ・能面を付けるときの礼儀の体験(代表生徒)	10分
6	謡 <small>うたい</small> の稽古 <small>けいこ</small>	・土蜘蛛の「汝知らずや我昔。葛城山に年を径し。土蜘蛛の精魂なり」 (代表者)	10分
	休憩	・「胡蝶 <small>こちょう</small> 」と「頼光 <small>らいこう</small> 」の役2名を、候補者6名から先生と相談して決める	10分
7	候補者発表(本会から)「胡蝶」と「頼光」役の生徒を発表		
8	土蜘蛛のお話し		5分
9	生徒の演じる型の説明と稽古		15分
10	謡の稽古 汝知らずや我昔。葛城山に年を径し。土蜘蛛の精魂なり。(全校生徒)		10分
11	選抜された生徒の演技練習		5分
12	終わりの挨拶(生徒) ありがとうございます		2分

タイムスケジュール(標準)
・楽屋入り 12:40 ・準備 12:40~13:20 ・開演 13:30 ・公演終了 15:10 ・片付け ~15:40 注)開演時間:13:30分を例としたタイムスケジュール

派遣者数
○主指導者 1名 補助者 3名の計4名。 ○長机 2 折畳み椅子 4 ハンドマイク 2(用意を願います)

学校における事前指導

土蜘蛛の「歌唱部分の詞章」のDVDを渡し、練習を依頼。

令和4年度文化芸術による子供育成推進事業—巡回公演事業—

本公演実施計画書

制作団体名	公益財団法人梅若研能会
公演団体名	公益財団法人梅若研能会

演目		
	始まりの挨拶	2分
	(狂言を見て体験してみよう)	
1	狂言 「痺 (しびり) 和泉流」 大蔵流は痺痢・痺痺の表記となる	15分
2	狂言の所作の説明 人物、動物等のセリフ、鳴き声等 (※胡蝶とトモは着替する)	15分
3	全員で挨拶 ありがとうございました	
	(土蜘蛛の通し稽古)	
4	胡蝶・トモの稽古 装束を付けて登場	8分
	* シテ、頼光、胡蝶、トモ、ワキ、狂言(アイ)の役割を説明	
	* 通し稽古は、胡蝶とトモ役の生徒が、幕から舞台に出て、所定の場所で頼光に「いかに申し上げ候」と「御薬を持ちて参りて候」のセリフを言って引くまでの動きを練習する。	
5	太鼓と謡の稽古 ・太鼓を打ってみよう・・・ 謡の代表4名と太鼓方との稽古	15分
	(太鼓に合わせて) ・「汝知らずや我昔。葛城山に年を経し。土蜘蛛の精魂なり」 (全校生徒)	
	(休憩) * 舞台に入らないよう指示する	10分
	(土蜘蛛を見てみよう)	
6	能 土蜘蛛 ・共演してみよう(生徒の胡蝶・トモが登場する)	25分
7	終わりの挨拶 ありがとうございました。 先生又は生徒	
8	感想・質疑 ・共演・鑑賞した生徒の感想及び質疑(先生・生徒・保護者)	10分

派遣者数

出演者 シテ方 11名 ワキ方 2名 狂言方 3名 囃子方 4名 計 20名
舞台業者1名・運搬業者1名 合計 22名

タイムスケジュール（標準）

・楽屋入り 11:00 ・舞台組立て 11:00～11:40 ・開演 13:30 ・公演終了 15:10
・舞台撤去 15:50

注)開演時間:13:30分を例としたタイムスケジュール

実施校への協力依頼人員

- ・胡蝶と頼光^{らいこう}の候補者6名程度選抜と最終2名にする相談と協力
- ・前項の6名から胡蝶と頼光^{らいこう}役の2名を除いた、4名が謡と太鼓の体験稽古をする

演目解説

狂言「痺（しびり）和泉流」のあらすじ

*演目の標記は、流儀により痙痲・痙痲の表記となる

急に客が来ることになったので、主人は太郎冠者^{たろうかじや}を呼び出し、和泉^{いずみ}の堺^{さかい}まで魚を買いに行くように命ずる。太郎冠者は行きたくないので、仮病^{けびょう}を使って逃れようと、しびりが切れたと大げさに痛がる。太郎冠者の仮病に気がついた主人は、伯父^{おじ}からの使いが来て今夜伯父が振舞^{ふるま}いをしてくれるが、太郎冠者はしびりの痛みで動けないから次郎冠者を連れて行くという。太郎冠者はご馳走^{ちそう}に機会^{きかい}を逃してはと、しびりを説得して治すと言い出す。…。

能「土蜘蛛」のあらすじ

源頼光^{みなもとのらいこう}が原因不明の病^{やまい}に伏していると、侍女^{じじよ}の胡蝶^{こちゆう}が薬を持って見舞いに来て励ますが思いに沈むばかり。やがて夜更^{よふけ}に頼光のもとに怪しげな僧^{あや}が現れ、蜘蛛^{そう}の糸を投げかけるが、頼光に斬^きられて逃^にげ去る。頼光の家来^{けらい}が駆^かけつけ、血^あの痕^{あと}を追^おうと葛城山^{かつらぎやま}に辿^{たど}り着く。すると岩陰^{いわかげ}から土蜘蛛^{せい}の精^{せい}が現れ、蜘蛛の糸を投げかけて頼光の家来をさんざんに苦しめるが最後^{さいご}は切り伏せ^{たいじ}退治される。

児童生徒の公演への参加方法、公演に参加させるための工夫

能

土蜘蛛では、「胡蝶」と「頼光^{らいこう}」の役を生徒に参加出演をしてもらいます。友達が能装束をつけて舞台に上がると、初めて見る装束のため、強い関心を示して生徒たちの集中力が途切れることがあります。また、代表の生徒たちによる太鼓の稽古と謡^{うたい}の練習、さらに全校生徒で謡の合唱をするなど、体験参加型の公演としております。過去2年の公演でもこの方式を採用して能に対する理解と関心を高める効果を挙げております。

児童生徒とのふれあい

この公演では、生徒全員に「すり足歩行」と「謡」の体験をしてもらい、見ているときや聴いているときは、簡単と思えた「歩く」「謡う」ことの難しさが分かります。

難しいゆえに生徒たちとの「ふれあい」が生まれ和やかな雰囲気を生じています。

また、公演終了後の「質疑応答」の時間でも、聞きたいことは何でも質問するよう誘導に努めています。この体験と質疑の場が理解を深める「ふれあい」の時間ととらえています。